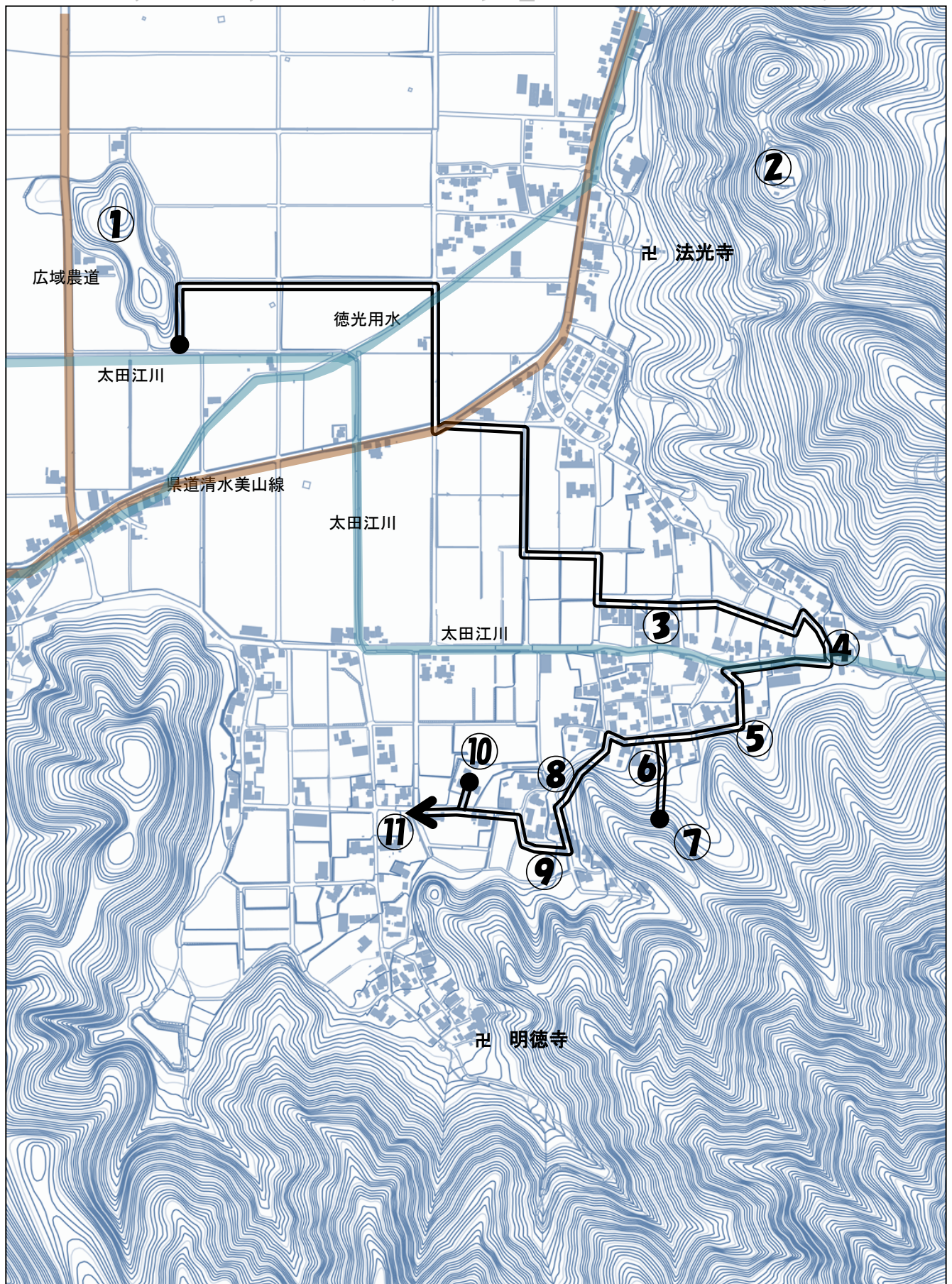


「田治の音を探ろう」 ルートマップ



ポイントの解説

① 熊野山

標高 31m で、福井三低山のひとつ。今の子どもたちにはスリッパ山と呼ばれていますが、昔は、弁慶の下駄についた土が寄せられてできた山だといわれていました。山頂の北側には熊野神社、南側には古墳群があります。上に登ってみるとラクダの背中ようです。

② 槇山

東郷城の石垣が残っていて、城山とも呼ばれています。城跡から見つかった石の瓦の大きさをみると、東郷城は丸岡城ほどの規模だったことがうかがえます。「槇山を育てる会」などの住民によって大切に手入れされている槇山では、春には桜の花が満開になり、また中腹には水芭蕉が群生しています。

③ 枋泉町集落センター

集落センターは地域の拠点として 25 年前から住民に利用されています。付近には無農薬や特別栽培の田んぼが多くあり、日本古来の植生が残っています。他県では絶滅危惧種になるような植物も生えています。戦国時代、谷沿いには沢山の武士が住んでおり、お殿様に納めるための薬草を育てていたそうです。今でも、そういった薬草を見つけることができます。

④ 泉堂場

坊乃城と呼ばれるこのエリアには、戦国時代の頃、七堂伽藍の寺社が立ち並び地蔵院があったと伝えられています。泉堂場には、明治初期にこの辺りの地主であった安井安兵衛さんのお仏壇があり、今も地域の人たちが交代で毎月お経をあげています。年末には男報恩講（おとこぼんこ）と女報恩講（おんなぼんこ）が行われ、囲炉裏を囲んで集落の住民みんなが集います。

⑤ 御清水

地域の人たちによって管理されている御清水で、榊と杉と櫟が絡み合っていて泉を守るように立っています。そして、そのふもとはお不動さんがいらっしゃいます。枋泉には他にも沢山の泉が湧いていて、地域の人たちはそれらを共同で管理して、飲み水だけでなく、料理や入浴などの生活用水として利用しています。

⑥ 本蓮寺

元は天台宗の寺院で、開基は本蓮院と伝えられています。朝倉氏の家臣、西川久右衛門より土地の寄進の受けたお墨付が今も残っています。本蓮寺の寺号は文化 12 年（1815 年）3 月 10 日に本山より授けられています。この土地に先祖代々伝わる枋の雅楽は、明治初期に本蓮寺より始まったと伝えられています。

⑦ 登知為神社

「知に登りて為す」という意で、西暦 771 年に創建されてから 16 世紀頃後半まではこの里一帯の総社でした。明治 41 年に大虚空神社と白山神社と合祀して現在に至ります。拝殿には菅原道真公の像が二体鎮座しており、本殿は覆堂で護られています。仏が神の姿で現れるという権現思想を表す神社の境内には梵鐘があります。境内の裏には戦国時代、尾根沿いに防戦の櫓が組まれていた堀切の跡が生々しく残っています。登知為神社では、毎年 5 月 5 日の節句に集落の子どもたちが「花山権現」と呼びながら地域を練り歩く花山行事が 800 年近く続いています。もともと男子だけのお祭りでしたが、現在は女子も行列に参加するようになりました。

⑧ 谷ノ坂

集落を結ぶ昔からの街道です。明智光秀がここで汗をかきながら薪を割っていた、という伝説があります。

⑨ トック加工場

東郷田治生産組合では、この土地で育てたコシヒカリを使ってトックというお餅を作っています。ずっと福井市の乾徳でトックを作っていたおばあちゃんが駅前で東郷のおにぎりを食べて、その美味しさに感動し、「このお米でトックを作りたい！」と言ったのがきっかけでした。そのおばあちゃんからトックの作り方を習い、2 年前からこの場所で作るようになりました。

⑩ 船着き場の築山

古代、足羽川の流域はここまで蛇行していて、このあたりは海のようなようでした。となりの田んぼの字目は「海田」です。そのあとも、この足羽川のもとの流れのあとに用水路や川が走っていて、それらは近代まで水路として使われていました。船着き場だったという伝説が残るこの場所には、ポコンとした築山があります。その山には先代の頃まで船着き松が生えていました。今も、百歳をとうに越える山茶花の大木が、船着き場の築山を静かに見守っています。

⑪ 桂山公民館

桂山と谷町の集会場として利用されています。

花と食と音のアートフェア ―田治を感じる秋の１日―

日時：平成 26 年 11 月 2 日（日） AM10:00～PM4:00 小雨決行

メイン会場：熊野山 （福井県福井市深見町 107-2-1 田治ふれあい会館近く）

主催：田治地域協議会

共催：花山行事保存会

協力：福井県立大学水口研究室

本蓮寺

明德寺

福井市防犯隊東郷支隊

木村健美

中川鉄夫

竹内鉄工所

田治地区自治会長、子供会

アドバイザー：朝倉由希

（都市農村共生対流総合対策交付金を受けて実施する催しです）

【趣旨】

米どころとして知られ、良質なコシヒカリを生産している東郷地区のなかで、田治地域は農業経営の 6 次産業化による地域活性化の取組を展開しています。その一方で、少子高齢化が進む人口減少社会において、地域コミュニティの崩壊、地域資産や農業生産基盤の維持困難といった問題が懸念されています。

そこで、地域の自然、歴史、人材を地区住民や都市住民に PR することにより、地域コミュニティの維持、農業農村経営の維持・活性化、良好な自然環境の維持に資するため、今回のイベントを企画しました。

プログラム

- ・花いっぱい運動（10:00～12:00 頃）
- ・田治の自然のコーナー（10:00～16:00 頃）
- ・スイーツお披露目、試食会（12:00～）
- ・東郷田治の新米コシヒカリのおにぎり配布、トックのトン汁他無料配布（12:00～13:00）
- ・田治の音を探ろう（13:30～16:00 頃）

■「田治の音を探ろう」について

この企画は、田治地域全体を舞台とした、音楽パフォーマンスです。フェア当日にむけて、作曲家の横山智子氏は、田治地域に住む子どもから高齢者までの幅広い年齢層の参加者と「田治の音を作ろう」というワークショップを実施し、一ヶ月に渡って交流してきました。

横山智子氏と地域住民のワークショップでは、例えば以下のようなことが展開されました。

- ・ 地域のことを良く知る語り部の案内で田治地域のフィールドワークを行い、字名の由来や寺社の沿革など土地の歴史の変遷について調査した。また、住民たちとの対話を通して地域の言い伝えや風習などを発掘した。
- ・ 地域の子どもたちと竹楽器の創作ワークショップを開催した。地元で切り出した竹を使用して、子どもたち自身が作りたい楽器をデザインし、自らの手で工作した。創作した竹楽器でアンサンブルを構成し、子どもたちの演奏を監修した。
- ・ 植物生態学の研究者である福井県立大学の水口先生と一緒に田治地区の植生を調査し、農業と生態系の関わりにおける地域的な特徴について観察した。
- ・ 世代を超えて土地に伝わる「枡の雅楽」や地元の太鼓グループ「花山権現太鼓」、そして音楽活動をしているその他の地域住民に参加を呼びかけて対話を重ね、それぞれの楽器を活かしながら、複数の物語を紡ぎ合わせて田治の風景を浮き彫りにする音楽パフォーマンスを創作した。

このワークショップのプロセスは、普段見慣れた環境を新たな視点から見つめ直すアーティストとの共同作業を通して、地域住民自身が地域の中に様々な魅力があることに気づくきっかけとなります。またそれを都市からの来訪者に対し披露することで、田治地域ならではの魅力を広く発信することになります。

横山智子氏プロフィール



福井県出身、東京都在住の作曲家。米国スタンフォード大学にて作曲と文化心理学を二重専攻し、卒業。マンハッタン音楽院やオランダ王立ハーグ音楽院でも作曲の研修を積む。以降、多様な人々を巻き込む共同作曲プロジェクトをはじめ、コンサートやラジオ音楽、インスタレーション、演劇、儀式パフォーマンスなど、分野を横断して社会に働きかける作品を発表している。南アフリカ **Unyazi** 音楽祭やフランス国立視聴覚研究所 **INA-GRM** といった世界各地のフェスティバルや文化機関に招聘されるほか、文化庁新進芸術家海外研修制度など多数の受賞歴を持つ。日本相撲聞芸術作曲家協議会（JACSHA）理事。

「田治の音を探そう」出演者

小川昭一&山下清和（詩吟）

梯文円（オカリナ）&田治ふれあいクラブ（歌）

木村朱夏（マリンバ）

高嶋宏和（サクソ）

田治地域の子どもたち（竹創作楽器）：奥汐里、河原彩希、北川咲未、玉井美咲都

前田あかり、松川弥怜、増永菜子、前田菜緒

枡泉雅楽会

花山権現太鼓

ふくい Wind Brass 有志メンバー：相川智彦（ホルン）、平田誠（ユーフォニアム）

三国シンフォニックウインズ有志メンバー：林浩子（フルート、ピッコロ）、畑野香織（トランペット、フリューゲルホルン）

水口亜樹（雑草博士）&福井県立大学水口研究室